

令和7年度 学校評価結果報告書(特別支援学校用)

(1) 学校教育目標	自らの将来をたくましく切り拓き、心身ともに健康で充実した生活を営むことができるよう、次に掲げる人間の育成を目指す。 ○互いの人格を尊重する心豊かな人間 ○努力を惜みず意欲的に行動する人間 ○学と業をもって社会に貢献する人間	学校整理番号	特1			
		学校名	青森県立盲学校			
		対象障害種別	視覚・聴覚・知的・肢体・病弱			
(2) 現状と課題	本校は今年度創立100周年を迎えた節目の年であった。これまでの歴史を振り返ると共に幼児児童生徒、保護者、地域の皆様、関係者の皆様、そして職員で創立100周年記念行事を通してお祝いすることができた。令和8年度末には、この矢田前校舎とお別れし、安田校舎へ移転する。そこで始まる青森聾学校との学校生活について検討し、準備を進めている。	自己評価実施日	令和8年1月21日(水)			
		学校関係者評価実施日	令和8年2月2日(月)			
(3) 重点目標	1 特別支援教育に関する専門性と指導力の向上 2 開かれた学校づくりの推進 3 ロービジョン相談支援センターの充実 4 幼児児童生徒・職員の心身の健康と安全教育の推進 5 キャリア教育の推進と進路指導の充実	(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成	学校運営協議会委員10名 ・大学教授1名 ・視覚障がい者情報センター職員1名 ・視覚障がい者協会役員(本校元教頭)1名 ・卒業生1名 ・地域住民2名 ・視覚障がい者用支援機器業者1名 ・卒業生保護者1名 ・福祉事業所関係者1名 ・校長1名			
(4) 結果の公表	・紙面による保護者への公表 ・学校ホームページへの掲載					
自 己 評 価						
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	(10) 次年度への課題と改善策
1	特別支援教育に関する専門性と指導力の向上	①校内・校外の研修・研究の充実 ②ICT機器を効果的に活用した分かる授業の推進 ③寄宿舎における生活指導・余暇活動の充実	①②校外での研修に職員を派遣し、その研修内容について全職員で共有することができた。校内の研修では、年度当初計画されていた研修の他に、ニーズに合わせたミニ学習会が複数行われ、専門性の向上が図られた。校内研究では6つのグループに分かれ、実践を通じた研究を行った。 ③寄宿舎では、生活指導をテーマにした校内研究の一環で行ったプチセミナーの内容を生かして指導することができた。	A	・授業参観や授業体験をしたことを受けて、丁寧な授業がされていることに感謝申し上げるという意見があった。 ・タブレット端末の活用状況やデジタル教科書のメリットやデメリットについて大変興味をもっていった。	・職員対象の学校評価に係る考察の際に自立活動の指導内容等について職員が不安感をもっていることが分かった。次年度は自立活動委員会の機能を発揮し、自立活動の充実を図っていく。

2	開かれた学校づくりの推進	①行事等の活動における地域との連携の強化 ②地域の学校との交流および共同学習の推進 ③教育活動の発信の強化	①各行事を本校創立100周年記念と位置付け、地域の方にも参加を呼びかけ実施した。また、畑の活動を地域の方と一緒にしたり、もちつき会を数年ぶりに行ったりするなど、地域の方との親交を深めた。 ②隣接する小学校や中学校、高等学校とともに児童生徒が行き来し、交流を深めることができた。 ③Webページに加え、InstagramやYouTubeでの情報発信を強化した。	A	・令和8年度は、矢田前校舎で過ごす最後の年となる。これまで以上に行事等を通して、地域住民や地域の交流校と交流を深めていってはどうか。	・令和9年度には安田地区で学校生活が始まる。令和8年度に、青森聾学校の部屋を借りて、地域の方を対象にマッサージ体験を行い、盲学校のことを理解してもらう機会を設定する。 ・理療部の紹介動画を作成し、YouTubeで本校の情報発信をしていく。
3	ロービジョン相談支援センターの充実	①関係機関への広報活動・支援内容の検討 ②弱視特別支援学級への支援と連携	①市町村教育委員会や福祉課などを訪問し、本校の理解啓発活動を行った。また、市民病院眼科医を訪問し、情報提供を行うことができた。 ②弱視特別支援学級在籍児童に対し、本校やサテライト教室で支援したり、担任と一緒に研修をしたり、小学校を訪問して支援したりと連携を強めた。	A	・福祉関係については、ケアマネジャーとのネットワークをもっているため、必要があればお手伝いできる。 ・これまで弘大眼科とのロービジョンケアが大変充実してきた。これからは眼科とのつながりを大切にしてほしい。	・医療機関、療育機関、町村教育委員会を中心に理解啓発活動を展開し、本校の情報提供をしていく。 ・弱視特別支援学級の在籍児童や学級担任の支援を行い、在籍児童の成長に寄与する。
4	幼児児童生徒・職員の心身の健康と安全教育の推進	①いじめや事故等の未然防止に向けた校内体制と安全教育の推進 ②職員の年休取得の推進	①いじめ防止基本方針について幼児児童生徒及び教職員で確認するとともに、いじめ等に発展しないよう教師が情報共有し指導につなげた。 ②年休取得について呼び掛けたり、会議や研修等日時を工夫して年休が取りやすい環境づくりを行った。	A	・生活アンケート結果や話し合いを受けて、日頃から先生たちが気配りしながらアンテナを張って気を付けていることがよく分かる。盲学校の良いところである。	・幼児児童生徒の観察や対話を通して、幼児児童生徒の変化に気付き、いじめやトラブルの未然防止、早期発見に努める。 ・職員のワーク・ライフ・バランスにある年次休暇を年16日取得の目標を達成するために、管理職からの呼びかけや年休が取りやすい環境づくりを強化する。
5	キャリア教育の推進と進路指導の充実	①一人一人の進路実現に向けた積極的な進路指導の展開 ②キャリア発達を促す教育活動の実践	①卒業生5名に対し進路情報の提供や実習など個々に応じた進路指導を丁寧に行うことができた。 ②キャリア・パスポートを活用して、その学年に応じた指導を行った。また、外部講師による学習会を設定して、自分の将来について考える機会を設けた。	A	・次年度は、国スポ・障スポが本県で開催される。これを機に、障がい種にこだわらず、いろいろなスポーツを通して楽しめることをこどもたちに伝えてほしい。	・本校生徒の希望進路先は多岐にわたる。生徒それぞれが希望する進路先に進むことができるよう、早期からキャリア教育の視点で学習を進めていく必要がある。そのため教員は、生徒の実態や進路希望を把握し、その希望が達成できるよう情報共有しながら計画的に日々の指導をしていく必要がある。
(11) 総括	保護者アンケート及び教職員アンケートの評価点の全体平均は、それぞれ4段階評価の「3.7」、「3.6」で高評価となっている。このことから、学校の教育活動に対して、保護者や教職員からは概ね理解が得られていると考える。 次年度は矢田前校舎で過ごす最後の年となる。この地域でお世話になった方々へ感謝をするとともに、新たな地での学校生活に期待をもてるような教育活動を展開していきたい。					